薬 物

耳鼻咽喉科領域における Venostasin の使用経験

山下 公一・本杉 雅英・柳沢 武弘

佐藤 喜一・大久保 仁・鈴木 達児*

Experiences of Venostasin Application to E. N. T. Diseases

K. Yamashita, M. Motosugi, T. Yanagisawa,
K. Sato, J. Okubo & T. Suzuki

Department of Otorhinolaryngology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo

Venostasin was used by intravenous routes in 28 cases which were consisted of 9 cases of acute tubar inflammation, 16 postoperative cases (8 cases of Luc-Caldwell's operation and 8 cases of tonsillectomy operation), one case of subacute glottic edema and 2 cases of radiation therapy for malignant cervical tumor.

In some cases Venostasin was found to be effective for swelling of the soft parts caused by acute inflammation. Especially marked effects were shown in the cases of acute tubar inflammation. (Author)

西洋とちのきの種子エキスを主剤とする Venostasin (軟部腫脹治療剤, 日本新薬 K. K.) を使用する機会を得たので, その経験を報告する。本剤は浮腫性軟部腫脹に対して有効であることはすでに整形外科領域で多くの報告があるが, 耳鼻咽喉科領域における応用に関しては未だ報告が少い。耳鼻咽喉科領域では一般に頭頸部の骨, 軟骨などの硬組織に囲まれた狭い部分に重要な器官が内蔵されて居るため, 手術, 外傷, 急性炎症などによるわずかの浮腫性腫脹によつても屢々重大な収障を起すことがある。斯かる場合の治療に本剤が有効であるとすれば, 従来適切な治療法が少なかっただけに, 本剤は当科領域において誠に有用な薬剤と言わねばならない。

使 用 対 象

ドイツではこの西洋とちのきを民間薬として古くから賞用されていると言われる。多くの研究により本剤の薬理作用は毛細管強化作用にあるとされていることから, 我々は臨床的に有効と考えられる疾患をえらん

で試用した。今回の試用対象は, 急性耳管狭窄症, 慢性副鼻腔炎根本手術後, 扁桃全剝術後, 亜急性声帯浮腫, 頭頸部悪性腫瘍放射線治療後などである。

投 与 法

Venostasin 注射液を1日1~2筒(5~10cc)を原

則として20%ブドウ糖20ccと混じて徐々に静注した。

臨 床 成 績

1. 急性耳管狭窄症

急性に頑固な耳閉感を訴え, 通気度の不良な症例を対象とした。9例中全例に効果がみとめられ, うち6

例は著効ありと判定された。効果判定は耳閉感の自覚消失と耳管通気度検査によつた。症例1は感冒罹患後終日両耳閉感, 耳鳴, 眩暈感を訴え来院したが, 本剤

* 東京医科歯科大学耳鼻咽喉科 (主任: 堀口申作教授)

急性耳管狭窄症

	氏名	性	年齢	1日の投与量 (cc)	効果発現までの回数	総投与回数	総投与量 (cc)	副作用	効果	備考
No.1		女	26	10～5	1	7	45	ナシ	卅	
2		女	25	5	1	2	10	〃	卅	
3		女	31	5	3	3	15	〃	+	中耳カタル併発穿孔にて液排除
4		男	29	10	1	5	50	〃	卅	
5		男	26	5	3	8	40	〃	+	
6		女	20	5	4	5	25	〃	+	
7		女	48	10	2	4	40	〃	卅	急性中耳炎併発
8		男	25	10	3	6	60	〃	卅	
9		女	30	10	1	6	60	〃	卅	

投与後約半日のあいだ主訴の軽快をみたと言ひ、投与を怠つた日は主訴が持続したと訴えた。総投与回数7回で主訴は全く消失し、耳管通気度が回復した。

2. 慢性副鼻腔炎汎根治手術後

慢性副鼻腔炎汎根治手術 Pansinektomie および Caldwell-Luc 氏手術後の両者に使用したが、本群では判定基準の作成にやや困難を感じた。原則として反対側手術を対照としたが、術後の腫脹、疼痛は本剤を使用しない場合でも左右差があるからである。しかし、試用した全例に術後の腫脹疼痛が殆んどみとめられなかつたか、少なかつたことから、効果ありと認めるのが妥当であろうと考えた。なお本群はいずれの例も抗生剤を併用した。

3. 扁桃全剔除術後

扁桃術施行後、ただちに Venostasin 注射液を静注した。本群も判定基準に難点があつたが扁桃術後1～2日

にかけて屢々観察される術創周囲組織の浮腫性腫脹とそれにより増強されると考えられる緊張性疼痛が著しく少いことを明らかに認めた。なお本群ではいずれの例においても抗生剤または化学療法剤、その他含嗽、およびトローチを併用している。

4. 亜急性声帯浮腫

本症例は急性喉頭炎に併発して約3週間嗄声を訴えて好転の兆候の見られない患者で両側声帯に中等度の発赤と共に浮腫が見られたもので、これに約2週間にわたり連続して本剤を注射すると共に吸入療法を行なつた。本剤使用中より徐々に嗄声は軽快し約2ヵ月の経過ののち殆んど消滅したのであるが、著明な効果はみとめられなかつた。声帯の如く血管成分の乏しい組織の腫脹に対しては本剤の効果を十分に期待できないのではないかと考えられた。

慢性副鼻腔炎汎根治手術 (Killian 氏手術+Caldwell-Luc 氏手術)

	氏名	性	年齢	1回の投与量 (cc)	総投与回数	総投与量 (cc)	副作用	効果	
No.1		男	25	5	2	10	ナシ	卅	術後1時間位で第1回投与
2		男	20	5	2	10	ナシ	卅	
3		男	23	5	3	15	口中苦味感続約1分持	卅	
4		男	21	5	2	10	ナシ	卅	
5		男	20	5	4	20	ナシ	+	

効果判定 卅 Killian 氏切開部及び頬部腫脹なし疼痛なし、眼瞼部腫脹なし。
+ 軽度の腫脹もしくは眼瞼部腫脹がみられるも疼痛なきもの。

Caldwell-Luc 氏手術

	氏名	性	年齢	1回投与量 (cc)	総投与回数	総投与量 (cc)	副作用	効果	備考
No.1		男	18	5	1	5	ナシ	卅	術後1時間位で第1回投与
2		女	31	5	1	5	ナシ	卅	
3		女	56	5	1	5	ナシ	卅	

効果判定 卅 頬部腫脹および疼痛全くなきもの。

扁桃全切除術

	氏名	性	年齢	病名	1回投与量 (cc)	総投与回数	総投与総量 (cc)	副作用	効果	備考
No.1	[redacted]	女	23	慢性扁桃炎	5	1	5	ナシ	+	術後30分に注射
2		男	15	習慣性アンギーナ	5	1	5	ナシ	+	〃
3		女	24	慢性扁桃炎	5	1	5	ナシ	+	〃
4		女	33	〃	5	1	5	ナシ	+	〃
5		男	27	〃	5	1	5	ナシ	+	〃
6		男	14	習慣性アンギーナ	5	1	5	ナシ	+	〃
7		女	17	慢性扁桃炎	5	1	5	ナシ	+	〃
8		男	8	習慣性アンギーナ	5	1	5	ナシ	+	〃

亜急性声帯浮腫

	氏名	性	年齢	1回投与量 (cc)	総投与回数	総投与総量 (cc)	副作用	効果
No.1	[redacted]	女	25	10～5	13	80	ナシ	±

5. 悪性腫瘍放射線治療後

上顎癌 1 例，喉頭癌 1 例（いずれも X 線深部照射病巣線量 6000r 照射例）について放射線火傷による口内，咽喉頭粘膜の発赤腫脹発生と同時に Venostasin 注射を開始し，照射終了後まで毎日乃至隔日に 1 筒宛施行した。しかしここで観察した範囲ではこれら軟部組織の放射線火傷に対しては著明な効果は認められなかった。放射線火傷による軟部組織の腫脹に対してはなお適用量，頻度などに工夫をすることによつて効果があるかどうかを試験中である。

副作用

あらかじめ 20% ブドウ糖 20cc と混合し，ごく徐々に静脈注射を行なつたので，とくに認むべき副作用は見られなかった。

総括

今回 Venostasin 注射液を試用したのは上記の如く急性耳管狭窄症 9 例，慢性副鼻腔炎根治手術症例 8 例，扁桃全切除術症例 8 例，亜急性声帯浮腫 1 例，頭頸部悪性腫瘍放射線治療症例 2 例の計 28 例である。症例数が少く，適確な結論を導き得ないが，急性炎症時の軟部腫脹に有効な場合のあることを示している。本剤は急性炎症時に発生する血管壁の障害を除去し，正常化するものとされているが，特に急性耳管狭窄症においては著明な効果がみとめられたことは注目に値する。なお声帯の如く血管の乏しい組織には効果が認め難いように思われた。また今回の経験では放射線火傷による軟部組織の障害には著明な効果はみとめられなかった。言うまでもなく急性炎症時殊に感染の合併しているばあいは抗生剤その他の薬剤と併用するが，さらに使用量，頻度，他剤との併用に適宜を得るならば耳鼻咽喉科領域での応用面がなお拡大するのではないかと考え，目下試用中である。

ご教示とご校閲をいただいた堀口教授，浜口助教授に深謝致します。

文献省略